形容詞シャレム（שָׁלֵם, šālēm）の ギリシア語翻訳-七十人訳聖書-について

柊　　曉　生

はじめに

ヘブライ語の形容詞 שָׁלֵם（šālēm，シャレム）[1] は旧約聖書の中で 28 回用いられている。このシャレムは日本語の『口語訳聖書』においては動詞，名詞，形容詞，副詞など 13 の単語に翻訳されている [2]。「完成する，切り整える，ことごとく，自然のまま，親しい，じゅうぶん，真実，正しい，不足のない，平和な，全き，全うする，満ちる」[3]。形容詞シャレムはこのように多くの意味を含んでいるということである。

それではシャレムは七十人訳聖書ではどのようなギリシア語に翻訳されているのであろうか [4]。それをこの論稿で考察しようとするわけであ

1　本稿では以下，ヘブライ語形容詞 שָׁלֵם（šālēm）をシャレムと表記する。

2　以下,『口語訳聖書』（日本聖書協会　1974）を口語訳と略記する。ただし，本稿における聖書の引用は基本的には『新共同訳聖書』（日本聖書協会 1993）- 新共同訳と略記 - である。

3　『聖書語句大辞典』（教文館　1959）索引 55 頁。フランス語共同訳聖書の TOB=*Traduction Oecuménique de la Bible. Ancien Testament* (Paris 1978) では 13 語のフランス語に翻訳されている。"intègre, intact, complet, masse, brut, sincère, exact, comble, sain et sauf, terminer, entièrement, préparer, paix." *Concordance de la Traduction Oecuménique de la Bible* (Paris 2002) 1114 頁参照。

4　ここで用いる七十人訳聖書のテクストは基本的には，*Septuaginta vetus testamentum graecum* (Göttingen 1931～) に準拠しているが，未刊の書物に関しては A. Rahlfs, *Septuaginta, id est Vetus Testamentum Graece iuxta LXX interpretes* (Stuttgart 1935 1965[8]) に依拠する。以下，七十人訳聖書は七十人訳，あるいは LXX と略記する。

る。*A Concordance to the Septuagint*[5] によれば，テクスト不明の箇所を除いて，シャレムは七十人訳のギリシア語訳において8語の形容詞，2語の動詞に翻訳されている。

シャレムが一番多く適用されているのは心–לֵבָב（lēbāb，レバブ）あるいはלֵב（lēb, レブ）–に対してであり，לֵבָב（lēbāb）に11回，לֵב（lēb）に3回の合計14回である[6]。לֵבָב（lēbāb）であれ，לֵב（lēb）であれ，心を形容するシャレムは5語のギリシア語に翻訳されている。

次にシャレムが多く使われているのは石に対してであり[7]，名詞אֶבֶן，（'eben）「石」の単数に3回，複数に2回の合計5回である。石を形容するシャレムは，ギリシア語の4単語に翻訳されている。石の複数形2回には同じ訳語があてられているが，単数形3回にはすべて異なった訳語が用いられている。そのほか旧約聖書の8箇所で，シャレムはさまざまなギリシア語に翻訳されている。

以下，まず第1に心を形容するシャレムのギリシア語訳語，第2に石を形容するシャレムのギリシア語訳語，第3にそのほかのシャレムのギリシア語訳語について検討する。

(1) לֵבָב（lēbāb，レバブ），לֵב（lēb，レブ）「心」

心を形容するシャレムが出てくるのは列王記と歴代誌においてがほとんどであり，あとはイザ38：3に1回あるのみである。列王記と歴代誌では，心のほかにシャレムが適用される単語があるのは列王記では王上6：7で1回（石），歴代誌では代下8：16で1回（主の神殿）あるのみである。列王記ではτέλειος（テレイオス）「完全な」が4回，πλήρης（プレーレース）「充分な」が1回[8]，歴代誌ではπλήρης「充分な」が5回，

---

[5] E. Hatch, H. A. Redpath, *A Concordance to the Septuagint* vol. I (Graz 1954) 173頁。

[6] G. Gerleman, "שלם *šlm* genug haben", *THAT II* (München, Zürich 1979) 927参照。

[7] G. Gerleman，前掲書同頁参照。

[8] 代上28：9。これは大部分のπλήρης が出てくる歴代誌の箇所より先にある。

τέλειος「完全な」が1回[9]用いられている。

① τέλειος「完全な」　王上 8：61，11：4，15：3，14，代上 28：9.

② πλήρης「充分な」　代上 29：9，代下 15：17，16：9，19：9，25：2，王下 20：3.

① 形容詞 τέλειος（テレイオス）「完全な」

列王記上で4回，歴代誌上で1回，シャレムのギリシア語訳語 τέλειος「完全な」は心を形容する単語として出て来る。これらの箇所は申命記史家によるものと考えられるが[10]，決まったある一定のパターンで叙述されている。列王記上の4箇所（8：61，11：4，15：3，14）ではすべて「主と共に」（עִם־יְהוָה, ʿīm yhwh）と一緒に，心がシャレム，「心が一つ」（新共同訳），「心は全く真実であり」（口語訳）という使われ方をしている。

王上 8：61	וְהָיָה לְבַבְכֶם שָׁלֵם עִם יְהוָה אֱלֹהֵינוּ לָלֶכֶת בְּחֻקָּיו וְלִשְׁמֹר מִצְוֹתָיו
王上 11：4	וְלֹא־הָיָה לְבָבוֹ שָׁלֵם עִם־יְהוָה אֱלֹהָיו כִּלְבַב דָּוִיד אָבִיו:
王上 15：3	וְלֹא־הָיָה לְבָבוֹ שָׁלֵם עִם־יְהוָה אֱלֹהָיו כִּלְבַב דָּוִד אָבִיו:
王上 15：14	וְהַבָּמוֹת לֹא־סָרוּ רַק לְבַב־אָסָא הָיָה שָׁלֵם עִם־יְהוָה כָּל־יָמָיו:
代上 28：9	וְעָבְדֵהוּ בְּלֵב שָׁלֵם וּבְנֶפֶשׁ חֵפֵצָה

王上 8：61　あなたたちはわたしたちの神，主と心を一つにし，

王上 11：4　彼の心は，～，自分の神，主と一つではなかった。

王上 15：3　その心も～，自分の神，主と一つではなかった。

9　王下 20：3。これは大部分の τέλειος が出てくる列王記の箇所より後にある。

10　"The term *whole-heartedness* (לב שלם) is indeed one of the basic expression of deuteronomic historiography (I Kgs. 8：61; 11：4; 15：3 and 14; 2 Kgs. 20：3) and was afterwards adopted by the Chronicler (I Chr. 12：38; 28：9; 29：9 and 19; 2 Chr. 16：9; 25：2)" M. Weinfeld, *Deuteronomy and the Deuteronomic School* (Oxford 1972) 269 頁。また同書 335 頁の "Deuteronomic phraseology" 参照。

王上 15：14 アサの心はその生涯を通じて主と一つであった。
代上 28： 9 全き心と喜びの魂をもってその神に仕えよ。

王上 8：61 καὶ ἔστωσαν αἱ καρδίαι ἡμῶν τέλειαι πρὸς κύριον θεὸν
王上 11： 4 καὶ οὐκ ἦν ἡ καρδία αὐτοῦ τελεία μετὰ κυρίου θεοῦ
王上 15： 3 καὶ οὐκ ἦν ἡ καρδία αὐτοῦ τελεία μετὰ κυρίου θεοῦ
王上 15：14 οὐκ ἐξῆρεν πλὴν ἡ καρδία Ασα ἦν τελεία μετὰ κυρίου
代上 28： 9 καὶ δούλευε αὐτῷ ἐν καρδίᾳ τελείᾳ καὶ ψυχῇ θελούσῃ

王上 11：4 と 15：3 の“וְלֹא־הָיָה לְבָבוֹ שָׁלֵם עִם־יְהוָה אֱלֹהָיו כִּלְבַב דָּוִיד אָבִיו”「彼の心は，父ダビデの心とは異なり，自分の神，主と一つではなかった」は同文であり[11]，七十人訳では“καὶ οὐκ ἦν ἡ καρδία αὐτοῦ τελεία μετὰ κυρίου θεοῦ αὐτοῦ”とどちらも同様に訳されている。ただ，王上 11：4 ではソロモン，15：3 ではユダの王アビヤム，この二人が父祖ダビデの心のようには主と心が一つ（シャレム）ではなかったと否定的に言われている。

しかしながらソロモンは，王上 8：61 では祈りの最後にイスラエルの民に向かって「主と心を一つに（シャレム）」と勧告していたのである。残念ながら，彼自身は多くの女性に心迷わされ（王上 11：3，4）父祖ダビデの心のようではなかった。一人，ユダの王アサのみが父祖ダビデと同様に–王上 15：11 では主の目に正しいこと（הַיָּשָׁר，τὸ εὐθὲς）をおこないと書かれている–生涯，主と心を一つにしていたと肯定的に言われている。代上 28：9 には，父ダビデの言葉として「わが子ソロモンよ，この父の神を認め，全き心と喜びの魂をもってその神に仕えよ。」とある。ここでは「全き心」“בְּלֵב שָׁלֵם”（ἐν καρδίᾳ τελείᾳ）と「喜びの魂」“וּבְנֶפֶשׁ חֶפְצָה”（ψυχῇ θελούσῃ）が対になっている。

② 形容詞 πλήρης（プレーレース）「充分な，完全な」

πλήρης（プレーレース）は七十人訳でシャレムの訳語として 7 回出

[11] ただし，新共同訳での翻訳は異なっている。

てくるが，6回は心に適用されている。そのうちの4回は代下15：17，16：9，19：9，25：2においてで，あとの1回は代上29：9においてである[12]。歴代誌のなかでの心とシャレムの関係の特徴は，列王記においては心が前置詞עִם（ʻim）「〜とともに」と一緒に4回主と共に用いられていたのに対し，歴代誌では心が前置詞בְּ（b^{e}）「〜において」をともなっていて，歴代誌上で4回，歴代誌下で2回，合計6回心と共に使われているということである。

王下20：3	אֲשֶׁר הִתְהַלַּכְתִּי לְפָנֶיךָ בֶּאֱמֶת וּבְלֵבָב שָׁלֵם
代上29：9	כִּי בְלֵב שָׁלֵם הִתְנַדְּבוּ לַיהוָה
代下15：17	רַק לְבַב־אָסָא הָיָה שָׁלֵם כָּל־יָמָיו:
代下16：9	בְּכָל־הָאָרֶץ לְהִתְחַזֵּק עִם־לְבָבָם שָׁלֵם אֵלָיו נִסְכַּלְתָּ עַל־זֹאת
代下19：9	מֹר כֹּה תַעֲשׂוּן בְּיִרְאַת יְהוָה בֶּאֱמוּנָה וּבְלֵבָב שָׁלֵם:
代下25：2	וַיַּעַשׂ הַיָּשָׁר בְּעֵינֵי יְהוָה רַק לֹא בְלֵבָב שָׁלֵם:

王下20：3　わたしがまことを尽くし，ひたむきな心をもって御前〜。
代上29：9　彼らが全き心をもって自ら進んで主にささげたから〜。
代下15：17　アサの心はその生涯を通じて誠実であって、
代下16：9　御自分と心を一つにする者を力づけようとしておられる。
代下19：9　主を畏れ敬い，忠実に，全き心をもって務めを果たせ。
代下25：2　正しいことを行ったが，心からそうしたのではなかった。

王下20：3　ἐνώπιόν σου ἐν ἀληθείᾳ καὶ ἐν καρδίᾳ πλήρει
代上29：9　ὅτι ἐν καρδίᾳ πλήρει προεθυμήθησαν τῷ κυρίῳ
代下15：17　ἀλλ’ ἡ καρδία Ασα ἐγένετο πλήρης πάσας τὰς ἡμέρας
代下16：9　ἐν πάσῃ τῇ γῇ κατισχῦσαι ἐν πάσῃ καρδίᾳ πλήρει πρὸς
代下19：9　ἐν φόβῳ κυρίου ἐν ἀληθείᾳ καὶ ἐν πλήρει καρδίᾳ
代下25：2　τὸ εὐθὲς ἐνώπιον κυρίου ἀλλ’ οὐκ ἐν καρδίᾳ πλήρει

---

[12]　例外はルツ2：12で，後述するようにそこでは報酬に関連して使われている。

ただし，そのうちシャレムが七十人訳のギリシア語で πλήρης と訳されているのは代上 29：9，代下 15：17，16：9 の 3 回である。πλήρης が心と共に使われている箇所で，シャレムが前置詞 בְּ（b^{e}）「～において」を伴うのは 6 回中 4 回で，1 回（16：9）は前置詞 עִם（‘im）「ともに」–ただし，ここでは主ではなくは心と共に–，1 回（15：17）はなにもなしである。

シャレムで形容される心の原語は，列王記ではすべて לֵבָב（lēbāb）であり，歴代誌下では 4 回すべて לֵבָב（lēbāb）であるが，歴代誌上では לֵבָב（lēbāb）が 2 回，לֵב（lēb）が 2 回である。

王下 20：3 には「『ああ，主よ，わたしがまことを尽くし，ひたむきな心をもって御前を歩み，御目にかなう善いことを行ってきたことを思い起こしてください。』こう言って，ヒゼキヤは涙を流して大いに泣いた。」とあり，ここで，i）בֶּאֱמֶת「まことを尽くし」，ii）“וּבְלֵבָב שָׁלֵם”「ひたむきな心をもって」，iii）“וְהַטּוֹב בְּעֵינֶיךָ”「御目にかなう善いこと」は同義的に使われている。七十人訳は i）“ἐν ἀληθείᾳ”「真実に」，ii）“καὶ ἐν καρδίᾳ πλήρει”「全き心で」，iii）“καὶ τὸ ἀγαθὸν ἐν ὀφθαλμοῖς σου[13]”「あなたの目にとって善いこと」とそれぞれを訳している。

マソラ・テクストのイザ 38：3 にはこの王下 20：3 と同じ文章が出てくるが[14]，小さな違いとしては，イザ 38：3 の場合には最初に וַיֹּאמַר「彼は言った」が書かれているということがある。他方，七十人訳の王下 20：3 が “ὦ δή”「ああ，実に」で始まるのに対し，イザ 38：3 は λέγων「言った」で始まるという違いがある。七十人訳ではイザ 38：3 と王下 20：3 の翻訳が異なり，訳者の相違が考えられる。

代下 19：9 には「ヨシャファトは彼らにこう命じた。『主を畏れ敬い，忠実に，全き心をもって務めを果たせ。』」とあり，i）「主を畏れ敬い」“בְּיִרְאַת יְהוָה”，ii）「忠実に」בֶּאֱמוּנָה，iii）「全き心をもって」“וּבְלֵבָב שָׁלֵם”

---

[13] ここでは טוֹב（トーブ）「善い」が ἀγαθός（アガトス）「善い」と訳されており，これが一般的であるが，代上 29：19 では “לֵבָב שָׁלֵם” が “καρδίαν ἀγαθὴν” とシャレムが ἀγαθός（アガトス）「善い」と訳されている。

[14] לֵב（lēb）「心」にシャレムが形容されるのは，列王記，歴代誌以外ではイザヤ 38：3 に 1 回出てくるのみである。

が同義的に用いられている。七十人訳はそれぞれ，ⅰ）“ἐν φόβῳ κυρίου”「主を畏れつつ」，ⅱ）“ἐν ἀληθείᾳ”「真実に」，ⅲ）“καὶ ἐν πλήρει καρδίᾳ”「全き心で」と翻訳する[15]。

代下 25：2 では「彼は主の目にかなう正しいことを行ったが，心からそうしたのではなかった。」とアマツヤに関して言われており，ⅰ）「主の目にかなう正しいこと」“הַיָּשָׁר בְּעֵינֵי יְהוָה”と，ⅱ）「しかし，全き心から〜ではなかった」[16] “רק לֹא בְלֵבָב שָׁלֵם”がある意味で対立的に表現されているが，七十人訳はそれぞれ，ⅰ）“τὸ εὐθὲς ἐνώπιον κυρίου”「主の前に正しいこと」，ⅱ）“ἀλλ’ οὐκ ἐν καρδίᾳ πλήρει”「しかし，全き心から〜ではなかった」と翻訳する[17]。

このように，“לֵבָב שָׁלֵם”「シャレムな心」は七十人訳において単純に一様に翻訳されているのではないということがわかる。

τέλειος（テレイオス）と πλήρης（プレーレース）の比較

（ⅰ）列王記上 15 章 14 節と歴代誌下 15 章 17 節

アサについて述べられている王上 15：14 と代下 15：17 はほぼ同文であるが，若干の相違がある。

王上 15：14　וְהַבָּמוֹת לֹא־סָרוּ רַק לְבַב־אָסָא הָיָה שָׁלֵם עִם־יְהוָה כָּל־יָמָיו׃
代下 15：17　וְהַבָּמוֹת לֹא־סָרוּ מִיִּשְׂרָאֵל רַק לְבַב־אָסָא הָיָה שָׁלֵם כָּל־יָמָיו׃

王上 15：14　聖なる高台は取り除かれなかったが，アサの心はその生涯を通じて主と一つであった[18]。

代下 15：17　聖なる高台はイスラエルから取り除かれなかったが，アサの心はその生涯を通じて誠実であった[19]。

15　ⅰ）“in timore Dei”，ⅱ）“fideliter”，ⅲ）“corde perfecto”（ヴルガタ訳）

16　新共同訳は「心からそうしたのではなかった」と訳す。

17　ⅰ）“fecitque bonum in conspectu Domini”，ⅱ）“verumtamen non in corde perfecto”（ヴルガタ訳）

18　「ただし高き所は除かなかった。けれどもアサの心は一生の間，主に対して全く真実であった。」（口語訳）

王上 15：14 では「主と共に」“עִם־יְהוָה”（ʿīm yhwh）があるが，代下 15：17 にはそれがなく，代下 15：17 には「イスラエルから」מִיִּשְׂרָאֵל（miyyiśrāʾēl）があるが，王上 15：14 にはそれがない。マソラ・テクストには形容詞シャレムが両者にあるが，七十人訳におけるその翻訳は同じではなく異なっている。

王上 15：14 ἡ καρδία Ασα ἦν τελεία μετὰ κυρίου πάσας τὰς ἡμέρας
代下 15：17 ἡ καρδία Ασα ἐγένετο πλήρης πάσας τὰς ἡμέρας

王上 15:14 では“ἡ καρδία Ασα ἦν τελεία”「アサの心は τελεία であった」と述べられているが，代下 15：17 では“ἡ καρδία Ασα ἐγένετο πλήρης”「アサの心は πλήρης であった」と記されている。この二つの形容詞は同義語で，列王記では τέλειος（テレイオス）が心に一般的に使われるのに対し，歴代誌では πλήρης（プレーレース）が心に一般的に用いられるのに呼応している。同様なことは王上 15：3 と王下 20：3 においてもあらわれる。

（ii）列王記上 15 章 3 節と列王記下 20 章 3 節

アビヤムに関して述べられている王上 15：3 と，ヒゼキヤに関して述べられている王下 20:3 では，どちらにおいても“לֵבָב שָׁלֵם”（lēbāb šālēm）が言われている。

王上 15： 3 וְלֹא־הָיָה לְבָבוֹ שָׁלֵם עִם־יְהוָה אֱלֹהָיו כִּלְבַב דָּוִד אָבִיו׃
王下 20： 3 אֲשֶׁר הִתְהַלַּכְתִּי לְפָנֶיךָ בֶּאֱמֶת וּבְלֵבָב שָׁלֵם

王上 15： 3 その心も～，自分の神，主と一つではなかった。
王下 20： 3 わたしがまことを尽くし，ひたむきな心をもって御前～。

---

19 新共同訳は「アサの心はその生涯を通じて主と一つであった」と翻訳するが，原文には「主と」はない。「ただし高き所はイスラエルから除かなかったが，アサの心は一生の間，正しかった。」（口語訳）

王上 15：3 καὶ οὐκ ἦν ἡ καρδία αὐτοῦ τελεία μετὰ κυρίου θεοῦ
王下 20：3 ἐνώπιόν σου ἐν ἀληθείᾳ καὶ ἐν καρδίᾳ πλήρει

しかしながら，七十人訳は王上 15：3 の “לֵבָב שָׁלֵם”（lēbāb šālēm）を “ἡ καρδία αὐτοῦ τελεία”「彼の心は完全で」と訳し，王下 20：3 の “לֵבָב שָׁלֵם”（lēbāb šālēm）を “ἐν καρδίᾳ πλήρει”「全き心で」と訳している。ただどちらも意味は同様でこの二つの形容詞は同義語である。新共同訳は前者を「その心も〜主と一つではなかった。」と訳し[20]，後者を「ひたむきな心をもって」と訳す[21]。ヴルガタ訳は両者ともに形容詞 perfectus「完全な」でもって訳している[22]。

③ ἀληθινός（アレーティノス）「真実な」

イザヤ書 38 章 3 節

וַיֹּאמַר אָנָּה יְהוָה זְכָר־נָא אֵת אֲשֶׁר הִתְהַלַּכְתִּי לְפָנֶיךָ בֶּאֱמֶת וּבְלֵבָב שָׁלֵם וְהַטּוֹב בְּעֵינֶיךָ

まことを尽くし，ひたむきな心をもって御前を歩み，御目にかなう〜。

ὡς ～ σου μετὰ ἀληθείας ἐν καρδίᾳ ἀληθινῇ καὶ τὰ ἀρεστὰ ἐνώπιόν σου

すでに述べたようにイザ 38：3 は王下 20：3 とほぼ同文である。ただ，王下 20：3 がシャレムを πλήρης（プレーレース）「完全な」と訳すのに対し，イザ 38：3 はシャレムを ἀληθινός（アレーティノス）「真実な」と訳す。この ἀληθινός（アレーティノス）は申 25：15 では石に適用されているが，イザ 38：3 では石に関してではなく，心に関してシャレム＝ἀληθινός が言われている。当節では前置詞 בְּ（b^{e}）「〜において」が 3 回繰り返されているが，七十人訳は，i）“μετὰ ἀληθείας”「真実をもって」，ii）“ἐν καρδίᾳ ἀληθινῇ”「真の心で」，iii）“καὶ τὰ ἀρεστὰ ἐνώπιόν σου”「あなたの前に喜ばれること」と訳しており，そこで述べられている 3 語は同義語と考えられる。七十人訳は אֱמֶת（’ĕmet，エメト）を ἀλήθεια「真実」，シャレムを ἀληθινός「真実な」と訳し，

---

20 「全く真実ではなかった」（口語訳），“son coeur ne fut pas intègre”（TOB）
21 「真心をもって」（口語訳），“d'un coeur intègre”（TOB）
22 “cor eius perfectum”（王上 15：3），“in corde perfecto”（王下 20：3）

ἀλήθεια（アレーテイア）と同根の単語で翻訳しているということがわかる[23]。心を形容するシャレムの翻訳に関して言えば，七十人訳においてはτέλειοςとπλήρηςの二つの形容詞がほとんどであるが，例外的にイザ38：3ではἀληθινός（アレーティノス）が使われ，代上29：19ではἀγαθός「善い」が使われている。

④ ἀγαθός（アガトス）「善い」

代上29：19

וְלִשְׁלֹמֹה בְנִי תֵּן לֵבָב שָׁלֵם לִשְׁמוֹר מִצְוֹתֶיךָ עֵדְוֹתֶיךָ וְחֻקֶּיךָ וְלַעֲשׂוֹת הַכֹּל וְלִבְנוֹת

わが子ソロモンに全き心を与え，あなたの戒めと定めと掟を守って～。

καὶ Σαλωμων τῷ υἱῷ μου δὸς καρδίαν ἀγαθὴν ποιεῖν τὰς ἐντολάς σου

神殿建築に関連して，王上8章にはソロモンの祈りがあるが，代上29：10～20節にはダビデの祈りが記されている。これは列王記にはなかった記事である。19節でダビデは神がソロモンに“לֵבָב שָׁלֵם”（lēḇāḇ šālēm）が与えられるようにと祈る。それは1)「あなたの戒めと定めと掟を守るため」であり，2)「何事も行うため」であり，3)「準備した宮を築くため」である。ここで「シャレムな心」は七十人訳では“καρδίαν ἀγαθὴν”「善い心」と訳され，ἀγαθός（アガトス）が心に形容されている。ヴルガタ訳は“cor perfectum”「全き心」と訳すが，これがシャレムの本来の意味をあらわしていると考えられる。ἀγαθός（アガトス）は通常（トーブ）「善い」の翻訳語として七十人訳ではあらわれる。七十人訳がここでシャレムをἀγαθός（アガトス）と訳すのは，ソロモンは「(民に)恵み深く-ἀγαθός-」(知8:15)，「善良な-ἀγαθός-魂に恵まれた(者)」(知8：19）という伝承があったゆえかも知れない。歴代誌でלֵבָב（lēbāb），לֵב（lēb)「心」を形容するシャレムは大部分がπλήρηςであるが，ここだけがἀγαθός（アガトス）「善い」であり，代上12:39だけがεἰρηνικός（エイレーニコス）「平和な」である。

---

[23] 1) “in veritate”，2) “in corde perfecto”，3) “quod bonum est in oculis tuis.”（ヴルガタ訳）

(2)　אֶבֶן, (’eben, エベン)「石」

シャレムが石を形容する箇所は旧約聖書中5回ある[24]。そのうちの2回，申27：6とヨシュ8：31は複数形で，祭壇の「自然のままの」（石）という同じ意味で使われている。ほかの3回は単数形で，王上6：7は神殿の建築用石材で，石切り場で「よく準備された」（石）という意味で用いられ，祭壇の石との関連がある。申25：15と箴11：1は計量の測りとしての「おもり」（石）の意味で使われている。大別すれば，祭壇や神殿との関係の石と測量の石との二つになる。

七十人訳におけるギリシア語訳はどうかと言えば，祭壇の石（複数）には同じギリシア語が使われているが，あとの神殿の石とおもりの石（2箇所）にはすべて異なったギリシア語形容詞が用いられている。

①　ὁλοκλήρος（ホロクレーロス）「完全無庇な，欠点のない」

(a)　申命記27章6節

אֲבָנִים שְׁלֵמוֹת תִּבְנֶה אֶת־מִזְבַּח יְהוָה אֱלֹהֶיךָ וְהַעֲלִיתָ עָלָיו עוֹלֹת לַיהוָה אֱלֹהֶיךָ׃

自然のままの石であなたの神，主の祭壇を築き，その上であなたの神，主に焼き尽くす献げ物をささげなさい。

λίθους ὁλοκλήρους οἰκοδομήσεις θυσιαστήριον κυρίῳ τῷ θεῷ σου καὶ ἀνοίσεις ἐπ’ αὐτὸ ὁλοκαυτώματα κυρίῳ τῷ θεῷ σου

(b)　ヨシュア記8章31節（＝LXX. 9章2節）[25]

כַּכָּתוּב בְּסֵפֶר תּוֹרַת מֹשֶׁה מִזְבַּח אֲבָנִים שְׁלֵמוֹת אֲשֶׁר לֹא־הֵנִיף עֲלֵיהֶן בַּרְזֶל וַיַּעֲלוּ עָלָיו עֹלוֹת לַיהוָה וַיִּזְבְּחוּ שְׁלָמִים׃

この祭壇は，主の僕モーセがイスラエルの人々に命じ，モーセの教えの書に記されたとおり，鉄の道具を使わない自然のままの石で造られた。彼らはその上で，主に焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげた。

λίθων ὁλοκλήρων ἐφ’ οὓς οὐκ ἐπεβλήθη σίδηρος καὶ ἀνεβίβασεν ἐκεῖ ὁλοκαυτώματα κυρίῳ καὶ θυσίαν σωτηρίου

24　申25：15，27：6，ヨシュ8：31，王上6：7，箴11：1。

25　七十人訳のテクストに関しては，J. Moatti-Fine, *La Bible d’Alexandrie VI. Jésus (Josué)* (Paris 1996) 139-141頁参照。

申 27:6 とヨシュ 8:31 の "אֲבָנִים שְׁלֵמוֹת" ('eben šālēm の複数形)「シャレムな石」は七十人訳では "λίθος ὁλοκλήρος"「完全無庇な石」と訳され，形容詞 ὁλοκλήρος[26]「完全無庇な」がシャレムにあてられている。申 27：6 は "λίθους ὁλοκλήρους" と対格で訳すのに対し，ヨシュ 8：31 は "λίθων ὁλοκλήρων" と属格で訳すところが異なる。この ὁλοκλήρος「完全無庇な，欠点のない」は 1 マカ 4：47 でも祭壇を造る「自然のままの石」として登場する[27]。

新共同訳，口語訳はともに「自然のままの石」と訳すが，ヴルガタ訳は申 27：6 では "de saxisi informibus et inpolitis"「手を加えて加工していない石材で」と訳すのに対し，ヨシュ 8：31 では "de lapidibus inpolitis"「加工していない石で」と訳す。

申 27：6 とヨシュ 8：31 の עֹלָה ('ōlâ, I)「焼き尽くす献げ物」は ὁλοκαύτωμα と訳されるが，この名詞は ὅλος「全て」＋ καίω「焼く」の合成語である。形容詞 ὁλοκλήρος「完全無庇な，欠点のない」は ὅλος「全て」+ κληρος「くじ，分け前」の合成語で，ὁλοκαύτωμα，ὁλοκλήρος のどちらにも ὅλος「全て」が接頭語としてついている。七十人訳のギリシア語において，ὁλοκλήρος「自然のままの」石の祭壇で，ὁλοκαύτωμα「焼き尽くす献げ物」が献げられるというのは，両者に共通する接頭辞 ὅλος「全て」によって，マソラ・テクストには見られない言語芸術的な対応をあらわしているということができる。[28]

ヨシュ 8：31 ではさらに שֶׁלֶם (šelem，シェレム)「和解の献げ物」という単語があるが[29]，語根は形容詞の שָׁלֵם (šālēm，シャレム)「平和な」と同じ שלם である。七十人訳はこの箇所を "θυσίαν σωτηρίου"「救い

---

[26] 反対語には κολοβός「切断した」がある。

[27] "καὶ ἔλαβον λίθους ὁλοκλήρους κατὰ τὸν νόμον καὶ ᾠκοδόμησαν θυσιαστήριον καινὸν κατὰ τὸ πρότερον"「そして祭司たちは，律法に従って，自然のままの石を持って来て，以前のものに倣って新しい祭壇を築いた。」

[28] 申 27：6 とヨシュ 8：31 の ὁλοκλήρος を "whole stones" (KJV)，"Von ganzen Steinen" (Luther 1545) と訳す。

[29] ここでは複数形。שֶׁלֶם (šelem)「和解の献げ物」の七十人訳での訳語についてはここでは考察しない。

のいけにえ」と訳している[30]。

ὁλοκλήρος は七十人訳で 11 回使われているが，そのうちの 8 回は נָצַב (nāṣab, ナツァブ)（ニファル形, 立つ, ザカリア 11：16），תָּמִים（tāmîm, タミム）「完全な」（レビ 23：15，エゼ 15：5）[31]，שָׁלֵם（šālēm，シャレム，申 27：6，ヨシュ 8：31）の訳語として用いられている。そのほか，4 マカ 15：17，知恵 15：3「全き義」，申 16：9[32] に出てくる[33]。

祭壇の石については,「しかし，もしわたしのために石の祭壇を造るなら，切り石で築いてはならない。のみを当てると，石が汚されるからである。」と出 20：25 にあり，申 27：6，ヨシュ 8：31 の "אֲבָנִים שְׁלֵמוֹת"（'eben šālēm）「自然のままの石」=ὁλοκλήρος は出 20：25 で言われている「切り石」גָּזִית（gāzît）=τμητός と対立している[34]。

以上は祭壇の石の関係で，シャレムが ὁλοκλήρος「完全無庇な，欠点のない」と訳されている箇所を見たのであるが, 次に神殿の石の関係で, シャレムが形容詞 ἀκροτόμος と訳されている箇所を考察する。

---

[30] ただし，アモス 5:22 では שֶׁלֶם（šelem）は単に σωτήριος「救い」と訳されている。

[31] レビ 23：15 は「満 7 週間」，エゼ 15：5 は「完全なとき」

[32] 七十人訳では「満 7 週間」と訳されているが，マソラ・テクストにはこれに相応するヘブライ語はない。七十人訳はレビ 23：15 の影響かと考えられる。

[33] 新約聖書では形容詞 ὁλοκλήρος は 2 回使われている。1 テサ 5:23 には「どうか平和の神（ὁ θεὸς τῆς εἰρήνης）御自身が, あなたがたを全く（ὁλοτελεῖς）聖なる者としてくださいますように。また，あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないもの（ὁλόκληρον）として守り〜」とあり，ὁλοτελεῖς「全く」と ὁλόκληρον「何一つ欠けたところのないもの」が接頭辞 ὅλος「全て」を共通として同義語として書かれている。ヤコブ 1：4 には「あくまでも（τέλειον）忍耐しなさい。そうすれば完全で（τέλειοι）申し分なく（ὁλόκληροι）何一つ欠けたところのない人になります。」とあり，形容詞 τέλειος（完全な）が 2 回，形容詞 ὁλοκλήρος（完全無庇の，欠点のない）が 1 回，同義語として使われている。

[34] 出 20：25 では חֶרֶב（ḥereb）「のみ」と言われているが，申命記 27：5，ヨシュ 8：31 では בַּרְזֶל（barzel）「鉄の道具」を当ててはいけないと言われている。申 27：6 の ὁλοκλήρος に関しては，C. Dogniez, M. Harl, *La Bible d' Alexandrie V. Le Deutéronome* (Paris 1992) 280 頁注参照。

② ἀκροτόμος（アクロトモス）「切り仕上げた」

列王記上 6 章 7 節

וְהַבַּיִת בְּהִבָּנֹתוֹ אֶבֶן־שְׁלֵמָה מַסָּע נִבְנָה וּמַקָּבוֹת וְהַגַּרְזֵן כָּל־כְּלִי בַרְזֶל לֹא־נִשְׁמַע בַּבַּיִת בְּהִבָּנֹתוֹ׃

神殿の建築は，石切り場でよく準備された石を用いて行われたので，建築中の神殿では，槌，つるはし，その他，鉄の道具の音は全く聞こえなかった。

καὶ ὁ οἶκος ἐν τῷ οἰκοδομεῖσθαι αὐτὸν λίθοις ἀκροτόμοις ἀργοῖς ᾠκοδομήθη καὶ σφῦρα καὶ πέλεκυς καὶ πᾶν σκεῦος σιδηροῦν οὐκ ἠκούσθη ἐν τῷ οἴκῳ ἐν τῷ οἰκοδομεῖσθαι αὐτόν

王上 6：7 の “אֶבֶן־שְׁלֵמָה” (’eben šlemâ)「シャレムな石」（単数形）は七十人訳では “λίθοις ἀκροτόμοις”「切り仕上げた石」と訳されている。形容詞 ἀκροτόμος は ἄκρος「先端」＋ τομός「鋭利な」の合成語である。新共同訳では「よく準備された石」，口語訳では「切り整えた石」と訳されている[35]。

ἀκρότομος は七十人訳で 10 回見受けられ，シャレムの訳語としてはここだけであるが，חַלְמִישׁ (ḥallāmîš)「硬い」の訳語として 3 回，新共同訳では「硬い（岩）」と訳されて出て来る[36]。そのほか 6 回のうちの 3 回は新共同訳で「切り立つ（岩）」と訳されている[37]。

③ ἀληθινός（アレーティノス）「真実な」

申命記 25：15

אֶבֶן שְׁלֵמָה וָצֶדֶק יִהְיֶה־לָּךְ אֵיפָה שְׁלֵמָה וָצֶדֶק יִהְיֶה־לָּךְ לְמַעַן יַאֲרִיכוּ יָמֶיךָ

---

35 “lapidibus dedolatis atque perfectis”（ヴルガタ訳）。“stone finished”（NRSV），“stone dressed”（REB，NAB），“quarry-dressed stone”（NJB）。

36 申 8：15，ヨブ 28：9，詩 113（= LXX. 114）：8。

37 ヨシュ 5：2，3，ヨブ 40：15（20），知 11：4（切り立つ岩と固い石が並行している），シラ 40：15（切り立つ岩），48：17（切り立った岩）。M. Noth は王上 6：7 のこの箇所を” aus unberüehrten Steinen vom Steinbruch erbaut” と訳す。*Könige I/1-16* (BKAT, Neukirchen 1983) 96, 115-116 頁参照。G. Gerleman，前掲書 927 参照。

עַל הָאֲדָמָה אֲשֶׁר־יְהוָה אֱלֹהֶיךָ נֹתֵן לָךְ
あなたが全く正確な重りと全く正確な升を使うならば，あなたの神，主が与えられる土地で長く生きることができるが，
στάθμιον ἀληθινὸν καὶ δίκαιον ἔσται σοι καὶ μέτρον ἀληθινὸν καὶ δίκαιον ἔσται σοι ἵνα πολυήμερος γένῃ ἐπὶ τῆς γῆς ἧς κύριος ὁ θεός σου δίδωσίν σοι ἐν κλήρῳ

申 25：13 ～ 16 は正しい秤について述べられている箇所であり，13 節では袋の中の重り = אֶבֶן（'eben）「石」，14 節では家の中の升 = אֵיפָה（'êpâ）「エファ」について，それぞれ大小二つを置いてはならないと忠告されている。15 節は 13, 14 の両節を統合した並行文で構成されている。

a）全く正確な重り

στάθμιον ἀληθινὸν καὶ δίκαιον ἔσται σοι，אֶבֶן שְׁלֵמָה וָצֶדֶק יִהְיֶה־לָּךְ

b）全く正確な升

μέτρον ἀληθινὸν καὶ δίκαιον ἔσται σοι，אֵיפָה שְׁלֵמָה וָצֶדֶק יִהְיֶה־לָּךְ

"אֶבֶן שְׁלֵמָה וָצֶדֶק"「全く正確な重り」と "אֵיפָה שְׁלֵמָה וָצֶדֶק"「全く正確な升」[38] とは並行文で，七十人訳は "στάθμιον ἀληθινὸν καὶ δίκαιον" と "μέτρον ἀληθινὸν καὶ δίκαιον" と訳す[39]。「重り」と「升」が対になっており，שָׁלֵם（šālēm，シャレム）と צֶדֶק（ṣedeq，ツェデク）「正義」は同義語と考えられる。七十人訳はシャレムを ἀληθινός（アレーティノス），ツェデクを δίκαιος（ディカイオス）と訳している。δίκαιος はここではツェデクの訳語であるが，箴 11：1 ではおもり石に形容されているシャレムの訳語として用いられている。ἀληθινός は七十人訳で主として אֱמֶת（'ĕmet）「真実」や יָשָׁר（yāšār）「正しい」など，9 語のヘブライ語の訳語として用いられている。シャレムの訳語として ἀληθινός

38　口語訳は「不足のない正しい重り石」と「不足のない正しいます」と訳す。

39　"pondus habebis iustum et verum", "modius aequalis et verus"（ヴルガタ訳）. "full and honest weight", "full and honest measure"（NRSV）. "true and correct weights", "true and correct measures"（REB）. "true and just weight", "true and just measure"（NAB）. "one weight, full and accurate"（NJB）. "un poids intact et exact, et tu auras une mesure entière et exacte"（BJ）, "poids intact et juste, un boisseau intact et juste"（TOB）.

は上述したように他にイザ38：3にも出て来る。

④ δίκαιος（ディカイオス）「正しい」

箴言11章1節 מֹאזְנֵי מִרְמָה תּוֹעֲבַת יְהוָה וְאֶבֶן שְׁלֵמָה רְצוֹנוֹ׃

偽りの天秤を主はいとい　十全なおもり石を喜ばれる[40]。

ζυγοὶ δόλιοι βδέλυγμα ἐνώπιον κυρίου στάθμιον δὲ δίκαιον δεκτὸν αὐτῷ

ここでは，מֹאזְנַיִם（mōʾzᵉnayim）[41]「天秤」=ζυγοι と אֶבֶן（ʾeben）「おもり石」=στάθμιον が並行し，מִרְמָה（mirmâ）「偽り」=δόλιοι と שָׁלֵם（šālēm）「十全な」=δίκαιον が対立している[42]。

a）偽りの天秤

ζυγοὶ δόλιοι βδέλυγμα ἐνώπιον κυρίου　מֹאזְנֵי מִרְמָה תּוֹעֲבַת יְהוָה

b）十全なおもり石

στάθμιον δὲ δίκαιον δεκτὸν αὐτῷ　וְאֶבֶן שְׁלֵמָה רְצוֹנוֹ

אֶבֶן־שְׁלֵמָה（ʾeben šlemâ）「シャレムな石」は申25：15と同じであるが[43]，箴11：1で七十人訳は申25：15と同じように“στάθμιον ἀληθῖνὸν”とは訳さずに，“στάθμιον δὲ δίκαιον”と訳している。申25：15でシャレムとツェデクは同義語として並行的に使われており，七十人訳も ἀληθινός「真実な」と δίκαιος「正義の」を同義語として並行的に訳している。箴11：1ではシャレムを δίκαιος と訳し，入れ替わって訳しているのである。

δίκαιος（ディカイオス）はシャレムの訳語（箴11：1）とツェデクの訳語（申25：15）としておもり石に関して言われているが，ほかにも計量の関係でツェデクの訳語として使われている。たとえば，レビ19：

---

40 「偽りのはかりは主に憎まれ，正しいふんどうは彼に喜ばれる。」（口語訳）

41 מֹאזְנַיִם（mōʾzᵉnayim）は動詞 אָזַן（ʾāzan II，アザン）「量る」に由来する双数の名詞。

42 “statera dolosa”，“pondus aequum”（ヴルガタ訳）

43 אֶבֶן（ʾeben）を，新共同訳は申25：15では「重り」，箴11：1では「おもり石」，口語訳は申25：15では「重り石」，箴11：1では「ふんどう」と訳しているが，訳語は統一したほうがよいと考えられる。

36では，“מֹאזְנֵי צֶדֶק”（mōʾzənê ṣéḏeq）「正しい天秤」，“אַבְנֵי־צֶדֶק”（ʾaḇnê-ṣéḏeq）「正しい重り」，“אֵיפַת צֶדֶק”（ʾêpaṯ ṣéḏeq）「正しい升」，“וְהִין צֶדֶק”（wəhîn ṣéḏeq）「正しい容器」[44]とツェデク「正しい」が4回繰り返しあらわれる。しかしながら，七十人訳では“ζυγὰ δίκαιά”，“στάθμια δίκαιά”，“χοῦς δίκαιος”と3回でのみで，マソラ・テクストの“וְהִין צֶדֶק”（wəhîn ṣéḏeq）「正しい容器」が省略されている[45]。七十人訳はマソラ・テクストを読み損じたのではないかと考えられる[46]。

エゼ45:10では，“מֹאזְנֵי־צֶדֶק”（mōʾzənê-ṣéḏeq）「正確な天秤」，“וְאֵיפַת־צֶדֶק”（wəʾêpaṯ-ṣéḏeq）「正確なエファ升」，וּבַת־צֶדֶק（ûḇaṯ-ṣéḏeq）「正確なバト升」とツェデクが3回繰り返され，七十人訳でも順次，“ζυγὰ δίκαιά”，“στάθμια δίκαιά”，“χοῦς δίκαιος”とδίκαιοςが3回繰り返し訳されている。

重りとしての石は旧約聖書の中で何回か登場する[47]。箴20：23は内容的に言っても特に11：1に関連する。「おもり石を使い分けることは主にいとわれる。天秤をもって欺くのは正しくない。」[48]。

“תּוֹעֲבַת יְהוָה אֶבֶן וָאָבֶן וּמֹאזְנֵי מִרְמָה לֹא־טוֹב”，“βδέλυγμα κυρίῳ δισσὸν στάθμιον καὶ ζυγὸς δόλιος οὐ καλὸν ἐνώπιον αὐτοῦ”

箴20：23のマソラ・テクストではאֶבֶן（ʾeben）「石」が2回出てくるが，七十人訳ギリシア語はδισσὸν στάθμιον「二重のおもり」と訳し

44　「正しいてんびん」，「正しいおもり石」，「正しいエパ」，「正しいヒン」（口語訳）。

45　この箇所のテクストに関しては，ed. J. W. Webwers, *Septuaginta II, 2 · Leviticus* (Göttingen 1986) 220頁参照。P. Harlé, D. Pralon はこの問題については言及していない。*La Bible d'Alexandrie III. Le Lévitique* (Paris 1988) 172頁。

46　“statera iusta et aequa sint pondera iustus modius aequusque sextarius.”（ヴルガタ訳）. “des balances justes, des poids justes, une mesure juste, un setier juste.”（B J）. “des balances justes, des poids justes, un épha juste et un hîn juste.”（TOB）.

47　申25：13，レビ19：36，サム下14：26，箴言11：1，20：10，23，16：11，コヘ3：5，ミカ6：11。

48　「互に違った二種のふんどうは主に憎まれる，偽りのはかりは良くない。」（口語訳）

ている[49]。多くの翻訳は概して直訳的に「石」，または「おもり」を2回繰り返して訳すが[50]，「異なったおもり」，あるいは「誤ったおもり」とする訳もある[51]。

また，名詞 מִרְמָה（mirmâ）「偽り」は箴言 11：1，20：23 では「おもり石」と同義語の「天秤」に適用されているが，ミカ 6:11 では「天秤」にではなく「石」に形容されている。「わたしは認めえようか　不正な天秤，偽りの重り石の袋を。」[52] “הַאֶזְכֶּה בְּמֹאזְנֵי רֶשַׁע וּבְכִיס אַבְנֵי מִרְמָה”，“εἰ δικαιωθήσεται ἐν ζυγῷ ἄνομος καὶ ἐν μαρσίππῳ στάθμια δόλου”[53]

(3) そのほか

① 動詞 ἀναπληρόω（アナプレーロオー）「満たす」

創世記 15：16　　וְדוֹר רְבִיעִי יָשׁוּבוּ הֵנָּה כִּי לֹא־שָׁלֵם עֲוֹן הָאֱמֹרִי עַד־הֵנָּה׃

ここに戻って来るのは，四代目の者たちである。それまでは，アモリ人の罪が極みに達しないからである。

τετάρτη δὲ γενεὰ ἀποστραφήσονται ὧδε οὔπω γὰρ ἀναπεπλήρωνται αἱ ἁμαρτίαι τῶν Αμορραίων ἕως τοῦ νῦν

創 15：16 の「アモリ人の罪が極みに達しないからである」という文章のなかでの「極みに達しないからである」“כִּי לֹא־שָׁלֵם”（男性単数形容詞）を，七十人訳は “οὔπω γὰρ ἀναπεπλήρωνται” と 3 人称複数完了受動形で訳している。動詞 ἀναπληρόω「満たす，完了する」は ἀνα（強

---

[49] 箴 20:10 にもおもりとしての石がエファとともに 2 回繰り返し出てくる。“אֶבֶן וָאֶבֶן אֵיפָה וָאֵיפָה”，“στάθμιον μέγα καὶ μικρὸν καὶ μέτρα δισσά”「おもり石の使い分け，升の使い分け」（新共同訳），「互に違った二種のはかり，二種のます」（口語訳）。

[50] “pondus et pondus”（ヴルガタ訳）“Poids et poids（BJ，TOB）”

[51] “Divers weights”（KJB）. “Differings weights”（NRS）. “False weights”（TNK）. “Mancherlei Gewicht”（Lut）. “One weight here, another there”（NJB）

[52] 「不正なはかりを用い，偽りのおもしを入れた袋を用いる人を／わたしは罪なしとするだろうか。」（口語訳）

[53] “numquid iustificabo stateram impiam et saccelli pondera dolosa.”（ヴルガタ訳）

意の接頭語）+πληρόω（満たす）の合成語で，πληρόω「満たす」は形容詞 πληρης「満ちている」と語根を一にする。形容詞 πληρης「満ちている」はすでに（1）で見たように，心を形容するシャレムの訳語として6回使われている。

七十人訳で ἀναπληρόω は13回使われており，そのうちの2回は動詞 שָׁלֵם（šālem）の訳語として出て来る。王上7：51では「すべての仕事（כָּל־הַמְּלָאכָה）が完了した（וַתִּשָּׁלֵם → ἀνεπληρώθη）」[54]，イザ60:20では「嘆きの日々（יְמֵי אֶבְלֵךְ）が終わる（וְשָׁלְמוּ → ἀναπληρωθήσονται）」として使われている。

② 人名 τοῦ Σαλωμων「ソロモン」

(a)　アモス1章6節後半　עַל־הַגְּלוֹתָם גָּלוּת שְׁלֵמָה לְהַסְגִּיר

彼らがとりこにした者をすべて／エドムに引き渡したからだ。

αἰχμαλωτεῦσαι αὐτοὺς αἰχμαλωσίαν τοῦ Σαλωμων τοῦ συγκλεῖσαι εἰς τὴν Ιδουμαίαν

(b)　アモス1章9節後半　עַל־הַסְגִּירָם גָּלוּת שְׁלֵמָה לֶאֱדוֹם

彼らがとりこをすべてエドムに引き渡し，

συνέκλεισαν αἰχμαλωσίαν τοῦ Σαλωμων εἰς τὴν Ιδουμαίαν

アモ1：6には「主はこう言われる。ガザの三つの罪，四つの罪のゆえに／わたしは決して赦さない。彼らがとりこにした者をすべて／エドムに引き渡したからだ。」という文章があるが，後半の「彼らがとりこにした者をすべて」の「すべて（שְׁלֵמָה）」−שָׁלֵם（šālēm）の女性形−を七十人訳は שְׁלֹמֹה（šᵉlōmōh）と読み，“τοῦ Σαλωμων”「ソロモンの」と属格で訳している。テクストを読み替えたのである[55]。ほとんど同様の文章であるアモ1：9も1：6と同じく“τοῦ Σαλωμων”「ソロモン」と訳している。

エレ13：19には「ユダはすべて捕囚となり／ことごとく連れ去られ

---

[54]　代下8：16にも「ソロモンのすべての工事が終った」“וַתִּכֹּן כָּל־מְלֶאכֶת שְׁלֹמֹה”とあるが，これについては後述する。

[55]　ヴルガタ訳はマソラ・テクストのように“captivitatem perfectam”と訳す。

た。」“הֻגְלָת יְהוּדָה כֻּלָּהּ הֻגְלָת שְׁלוֹמִים”とあり，アモ1：6，9と似た文章であるが，ここでは形容詞שָׁלֵם（šālēm）ではなく，名詞שָׁלוֹם（šālôm）「シャローム」が使われている。七十人訳は“καὶ οὐκ ἦν ὁ ἀνοίγων ἀπῳκίσθη Ιουδας συνετέλεσεν ἀποικίαν τελείαν”と，名詞シャロームを形容詞τέλειος「完成した」で訳している。このτέλειος「完成した」はすでに（1）で見たように，心を形容するするシャレムの訳語として4回使われている単語である。

アモ1：6，9がシャレムを人名“τοῦ Σαλωμων”「ソロモン」と訳すのに似て，シャレムを地名Salhm「サレム」と訳すの創33：18である。

③ 地名 Σαλημ「サレム」

創世記33章18節 וַיָּבֹא יַעֲקֹב שָׁלֵם עִיר שְׁכֶם

ヤコブはこうして，パダン・アラムから無事にカナン地方にあるシケムの町に着き，町のそばに宿営した

καὶ ἦλθεν Ιακωβ εἰς Σαλημ πόλιν Σικιμων ἥ ἐστιν ἐν γῇ Χανααν

この箇所をサマリア五書は形容詞シャレムではなく，名詞のシャローム（שָׁלוֹם，šālôm）で記している。創28：21には「無事に父の家に帰らせてくださり」“וְשַׁבְתִּי בְשָׁלוֹם אֶל־בֵּית אָבִי”とあり，「着く」という動詞ではなく，「帰る」という動詞ではあるが，「無事に」בְּשָׁלוֹם（前置詞 b^e ＋名詞 šālôm）と言われているので，それとの連想があったのかも知れない。創33：18のマソラ・テクストは形容詞シャレムであるが，伝統的には副詞として訳されており，若干の翻訳もそれに従い「無事に」と翻訳する[56]。ただし，七十人訳は創14：18の「サレム」との関連からか，これを「サレム」という地名で訳する[57]。

---

[56] *HAL Band2* (Leiden 1995) 1424頁参照。1545年版のルター訳は「サレム」だが，その後の1912，1984年版では「無事に」と翻訳されている。

[57] ヴルガタ訳も「サレム」と訳し，KJVもShalemと訳す。BDBはשָׁלֵם Ⅰを形容詞とし，שָׁלֵם Ⅱをサレムとする。1023～1024頁参照。

④ εἰρηνικός（エイレーニコス）「平和的な」

(a)　創 34：21　　הָאֲנָשִׁים הָאֵלֶּה שְׁלֵמִים הֵם אִתָּנוּ

あの人たちは，我々と仲良くやっていける人たちだ。

οἱ ἄνθρωποι οὗτοι εἰρηνικοί εἰσιν μεθ’ ἡμῶν οἰκείτωσαν ἐπὶ τῆς γῆς

ハモルと息子シケムの言葉として「あの人たち（ヤコブ一族）は，我々と仲良くやっていける（שְׁלֵמִים）人たちだ。」とここでは言われているが，このשְׁלֵמִים は形容詞シャレム（שָׁלֵם, šālēm）の複数形である。七十人訳はこの箇所を“οἱ ἄνθρωποι οὗτοι εἰρηνικοί εἰσιν”「これらは平和な人々である」と形容詞 εἰρηνικός（エイレーニコス）「平和的な」の複数形でもって訳している。同様に，形容詞シャレムを εἰρηνικός「平和的な」で訳すのは代上 12：39 である。ヘブライ語の名詞シャロームの大部分が七十人訳ギリシア語ではエイレネーと訳されることとの比較で考えると，形容詞シャレムがエイレーニコスと訳されるのは 2 回と非常に少ない。

(b)　代上 12：39

חֲבֵרוֹנָה כָּל־אֵלֶּה אַנְשֵׁי מִלְחָמָה עֹרְכֵי מַעֲרָכָה בְּלֵבָב שָׁלֵם בָּאוּ חֶבְרוֹנָה

このすべての戦陣に臨める戦士たちが，全き心をもってヘブロンに〜，

πάντες οὗτοι ἄνδρες πολεμισταὶ παρατασσόμενοι παράταξιν ἐν ψυχῇ εἰρηνικῇ

この箇所では戦士たちが「全き心」“בְּלֵבָב שָׁלֵם”をもってヘブロンに集まったとあるが，七十人訳はこれを“ἐν ψυχῇ εἰρηνικῇ”「平和な心で」と訳す。(1) で見たように心を形容するシャレムは七十人訳で形容詞 τέλειος「完成した」と形容詞 πληρης「満ちている」に訳されることが多いのであるが，心を εἰρηνικός「平和な」で形容するのはここだけである。新共同訳は「全き心」と訳しているが[58]，これはヴルガタ訳の“corde perfecto”（完全な心）につらなるものであり，爾来，多くの翻訳がこれを踏襲している[59]。

58　口語訳（38 節）は「真心をもって」と訳す。

この“בְּלֵבָב שָׁלֵם”は39節前半にあるが，後半には“לֵב אֶחָד”「一つの心」と言われており，両者は心のあり方において対応関係にあると思われる[60]。そうすると，אֶחָד（ʾeḥad）「一つ」に対応するシャレムは「全き」という意味で理解するのがよいのではないかと考えられる。「一」と「全」が同義語として，一なる心，全なる心をあらわしている。“בְּלֵבָב שָׁלֵם”を七十人訳のように「平和な心で」と訳していいとも考えられるが，代上12：39の文脈から言えばヴルガタ訳以来の翻訳が妥当であろう。

⑤ 翻訳なし

ナホム書1：12

כֹּה אָמַר יְהוָה אִם־שְׁלֵמִים וְכֵן רַבִּים וְכֵן נָגֹזוּ וְעָבַר וְעִנִּיתִךָ לֹא אֲעַנֶּךָּ עוֹד׃

主はこう言われる。「彼らは力に満ち，数が多くても／必ず，切り倒され，消えうせる。わたしはお前を苦しめたが／二度と苦しめはしない。」

τάδε λέγει κύριος κατάρχων ὑδάτων πολλῶν καὶ οὕτως διασταλήσονται καὶ ἡ ἀκοή σου οὐκ ἐνακουσθήσεται ἔτι

当節のマソラ・テクストは破損しており，七十人訳は“אִם־שְׁלֵמִים”（ʾim-šəlēmîm）をそのとおりには翻訳していない。“אם־שלמים”を“משל מים”と解し，ゼカ9:10の“וּמָשְׁלוֹ מִיָּם”（ûmošlô miyyām），“κατάρξει ὑδάτων”との関連からか，“מָשַׁל מַיִם רבים”と読んで“κατάρχων ὑδάτων πολλῶν”「多くの水に命じながら」と訳す[61]。ここではシャレムがギリシア語に翻訳されていないので，この問題にはこれ以上ふれない。

---

59 “with a perfect heart”（KJV, NAU），“de plein coeur”（BJ），“d'un coeur intègre”（TOB）.

60 TOBは前者を“d'un coeur intègre”と訳し，後者を“d'un seul coeur”と訳す。新共同訳，口語訳は前者を「全き心」，後者を「同意した」と訳す。

61 この問題に関しては，M. Harl 他，*La Bible d'Alexandrie. Les douze Prophètes 23. 4-9* (Paris 1999) 204-205頁参照。また，H-J. Fabry, *Nahum* (HThKAT 2006) 145頁参照。本文の読みに関しては *Preliminary and Interim Report on the Hebrew Old testament Text Project.* Vol. 5 (UBS, New york 1980) 341頁参照。

⑥　動詞 τελειόω（テレイオオー）「完成する」

代下 8：16

וַתִּכֹּן כָּל־מְלֶאכֶת שְׁלֹמֹה עַד־הַיּוֹם מוּסַד בֵּית־יְהוָה וְעַד־כְּלֹתוֹ שָׁלֵם בֵּית יְהוָה׃

ソロモンの工事はすべて，主の神殿の定礎の日から，完成の日まで無事に遂行され，主の神殿は完全なものとなった。

καὶ ἡτοιμάσθη πᾶσα ἡ ἐργασία ἀφ᾽ ἧς ἡμέρας ἐθεμελιώθη ἕως οὗ ἐτελείωσεν Σαλωμων τὸν οἶκον κυρίου

ここでは，ソロモン（שְׁלֹמֹה, šəlōmōʰ）のすべての建設工事が遂行され（כּוּן, kûn），主の神殿が「完成した」（シャレム）ことが述べられている。この箇所で，七十人訳は形容詞シャレムを ἐτελείωσεν と動詞 τελειόω（テレイオオー）「完成する」のアオリストで訳している。ヴルガタ訳も perfecit と動詞 perficio「完成する」で訳し，TOB は動詞 terminer「完了する」，BJ は achever「成し遂げる」とすべて同じような動詞で翻訳している。新共同訳は「完全なものとなった」とし，口語訳は「完成する」とする。

この動詞 τελειόω「完成する」と語根を同じくするのが（1）ですでに見た心を形容する形容詞 τέλειος「完全な」である。

⑦　形容詞 πλήρης（プレーレース）「充分な，完全な」

ルツ記 2 章 12 節

יְשַׁלֵּם יְהוָה פָּעֳלֵךְ וּתְהִי מַשְׂכֻּרְתֵּךְ שְׁלֵמָה מֵעִם יְהוָה אֱלֹהֵי יִשְׂרָאֵל אֲשֶׁר־בָּאת לַחֲסוֹת

どうか，主があなたの行いに豊かに報いてくださるように。イスラエルの神，主がその御翼のもとに逃れて来たあなたに十分に報いてくださるように。

ἀποτείσαι κύριος τὴν ἐργασίαν σου καὶ γένοιτο ὁ μισθός σου πλήρης παρὰ κυρίου θεοῦ Ισραηλ πρὸς ὃν ἦλθες πεποιθέναι ὑπὸ τὰς πτέρυγας αὐτοῦ

ルツ 2：12 では，ボアズがルツに語る言葉が記されている。その中の「豊かに報いてくださるように」はマソラ・テクストでは יְשַׁלֵּם で，これは動詞シャレム（שָׁלֵם, šālēm）の強調形である。一方，「あなたに十分

に報いてくださるように」はマソラ・テクストでは שְׁלֵמָה で，これは形容詞のシャレム（שָׁלֵם, šālēm）である。どちらも同根の שלם である。語根の שלם（šlm）には罰金を支払う，弁償する意味もある。ここでは前者の動詞でのみその意味で使われており，後者の形容詞では報酬が充分であるという意味で用いられている。

七十人訳は前者の動詞シャレム（שָׁלֵם, šālēm）を動詞 ἀποτίνω（アポティノー）「払う」の希求法アオリストでもって訳し，後者の形容詞シャレム（שָׁלֵם, šālēm）を形容詞 πλήρης（プレーレース）「充分な」（＋ ὁ μισθός, 報酬）でもって訳す。

ἀποτίνω は接頭語 ἀπο（完了の意）＋動詞 τίνω「支払う」の合成語で，法律用語として罰金を支払う，弁償するなどの意味がある。

おわりに

本稿ではヘブライ語の形容詞シャレム（שָׁלֵם, šālēm）に焦点を絞り，その七十人訳におけるギリシア語訳について考察を試みた。その結果，1）心に関しては，主として τέλειος（テレイオス）「完全な」と πλήρης（プレーレース）「充分な」の2形容詞，および ἀληθινός（アレーティノス）「真実な」と ἀγαθός（アガトス）「善い」の2形容詞が使われているが，2）石に関しては，ὁλοκλήρος（ホロクレーロス）「完全無庇な」，ἀληθινός（アレーティノス）「真実な」，ἀκροτόμος（アクロトモス）「切り仕上げた」，δίκαιος（ディカイオス）「正しい」の4形容詞が用いられているということが明らかになった。3）そのほかに関しては，ἀναπληρόω（アナプレーロオー）「満たす」と τελειόω（テレイオオー）「完成する」の2動詞，Σαλωμών「ソロモン」と Σαλημ「サレム」の2固有名詞，εἰρηνικός（エイレーニコス）「平和的な」と πλήρης（プレーレース）「充分な」の2形容詞がシャレムのギリシア語訳として出てくるということがわかった。

以上から考えられることは，名詞シャローム（שָׁלוֹם, šālôm）の多くが七十人訳ギリシア語ではエイレネー（εἰρήνη）「平和」と訳されるのとは異なり，形容詞シャレムがエイレネーと同根の形容詞 εἰρηνικός（エイレーニコス）「平和的な」と訳されることは2回と非常に少ないとい

うことである。

七十人訳聖書で形容詞 εἰρηνικός（エイレーニコス）「平和的な」は約51回出てくる[62]。そのうち，動詞シャレム שָׁלֵם（šālēm）の訳として1回[63]，名詞シャロームの訳として12回，シェレム שֶׁלֶם（šelem）「和解の献げ物」の翻訳として13回[64]，כֵּן（kēn）「正しい」の訳として5回[65]である。εἰρηνικός（エイレーニコス）の多くはシャロームとシェレムの翻訳である。形容詞シャレムの訳としては2回だけであり，ヘブライ語の形容詞シャレムは「平和的な」というよりも，「完全な」，「十全な」などの意味合いを持つことが多いということである。

ギリシア語の形容詞 εἰρηνικός（エイレーニコス）「平和的な」がどのように七十人訳聖書で使われていたのかを詳細に考察することは今後の課題である[66]。

62　七十人訳の εἰρηνικός については，W. Foerster, "εἰρηνικός" *TDOT* vol. II. 418頁参照。

63　サム下20：19。

64　E. Hatch, H. A. Redpath, *A Concordance to the Septuagint* vol. II (Gratz 1954)，402頁（c）のⅢ ki. 3. 1（9. 25）は不明。

65　すべて創世記42章である。創42：11，19，20，21，25。

66　新約聖書ではヘブ12：11，ヤコ3：17の2箇所に出てくる。